一人一人に学ぶ力を育てる

算数の学習と学び方

段階		学び方と子どもの意識	学び方を支える手だて
つかむ	問題場面との出会い 既習との対比 経験の想起	◎経験や既習内容と比べて数量形の関係をつかむ ・似たところはどこかな？ ・違うところはどこかな？ ・何がわかっていて，何を聞いているのかな？	○発見的な問題場面を提示（知的好奇心の喚起） ・既習と対比させた問題場面 ・条件不足・過多の場面 ・特殊から一般への場面 ・属性を含む生活場面の提示 ○子どもとともにまとめた既習の学び方の掲示と，関連づけ
		課題　◎本時の課題をつかむ 「今日は，～が・・のときの解決方法をみつけていこう。」	
考えをもつ	解決の見通し 方法の選択 自分なりの考えをもつ（解決１）	◎解決の方法を工夫して自分なりの考えをもつ ・絵や図にかく ・変わり方を調べる ・置き換える ・構成要素に目を付ける ・式にあらわす ・具体的操作をする	○解決方法の選択の場の位置づけ ○ねらいに迫る算数的活動の工夫 ○算数コーナーの位置づけ ○学習プリント・ホワイトボード・Ｂ３版紙など表現手段の工夫 ○個の追究に関わる価値付けと援助
みつける	仲間との考えの交流 よりよい考えへの気づき	◎互いの考えを交流して，よりよい方法に気づく ・～の方法で考えるとできるね ・似ている方法は，どれだろう？ ・早い・簡単・わかりやすい方法はどれかな？ ・別の方法ではできないかな？	○自らの考えをすべて表現する場の工夫（ペアなど） ○つなぎ言葉を生かした集団での話し合い 「はじめ，次に，だから・・」「ここのところが少し・・」「いつでもいえるかと思って・・」「似ているところをみつけたんだけど・・」など
	考えを見つける（解決２）	◎他の問題や場面でよりよい方法をみつける ・やっぱり，～の方法を使うと早くできるね。 ・なるほど，だから～という考えがいいんだね。 ・もう少し～について確かめよう	○自分のお気に入りの方法で確かめてみる活動の位置づけ（確かめの活動の位置づけ） ○「早い・簡単・わかりやすい・いつでもいえる」の観点から
		まとめ　◎考えを自分でまとめる。 **「～のときには・・すればよい。」**	
確かにする	考えの活用と技能の習熟 本時の学習の振り返り	見つけた考え方のよさを味わう ・どんなときにも，この考え方でいいのかな？ ・似た問題を作ってみよう。 ・～なときには，いったいどうなるのだろう？ ・他の場合について調べてみよう	○見つけた方法の適用とよさの味わい ・自作問題に挑戦 ・コース別学習（習熟度や興味・関心に応じた学習） ・いろいろな場面を想定して，さらに追究する。 ○単元の終末においては・・ ・親しむ(問題を作り解きあう) ・まとめる（学習をまとめる） ・見通す（発展を見通す）